

『本を出しました。』



外語のみなさん、長いことご無沙汰しています。

この度人生初の本を出しました。

『プロデュースの基本』という本です。

僕は外語のフランス語学科に 1965 年に入学して、

バスケットボール部に 4 年間在籍していました。

思い出すと走ってばかりですごく辛かったです。3 年生からちょこっと試合に出してもらい、レギュラーにもなりました。

それからはバスケが楽しくなりました。

フランス語劇にも出ました。ユビュ王でした。

1969 年の 6 月に卒業しました。何故 6 月かというとその当時学園紛争、学園閉鎖がありまして、卒業が遅れました。

その後自分の出身校の駒場東邦の英語の先生のところに行って先生になりたいとお願いしたら、快諾してくれました。

ですがストの煽りで教職が取れませんでした。

先生になることを諦めざるを得なくなり、音楽が好きだったので、レコード会社に行きたいと思っていたのですが、卒業前でないと試験を受けられず、縁故で渡辺音楽出版に入りました。外語大だったので、英語が得意だと思われるので採用だったと思います。

そこでの仕事は外国との手紙のやり取りと著作権の管理でした。

事務は苦手で嫌でしたが、辞める勇気もないまま時は過ぎて行きました。

と言っても 1 年ちょっとだと思います。

会社にピアノがあったので弾いてたら、「ピアノ弾けるんだ」と先輩が話しかけてきました。それでこの会社でレコーディングなどの音楽制作もやっていることが分かり、スタジオに連れていてもらうようになり、次第に意見を言うようになって、のちに制作に配置転換になりました。

僕は中学生の時からアメリカの音楽が好きでレコードを聴いていました。そのうちこういう曲が作りたいと思うようになって、ギターを買ってもらって、コードを覚えて曲を作るようになりました。

作りたいと思うようになって曲を聴いてると、いろんな発見がありました。

音楽は習ったことはなかったのですが、作りたいという気持ちがあつて音楽を聴いているとパーツをバラバラに分解して聴けるようになりました。好きな曲がどんなふうに組み立てられてるとかが分かり、良い曲を作るコツや法則などを自分なりに築いていきました。

その後音楽を仕事にするようになると、曲だけでなく、アーティストのこと、プロモーションのこと、人とのコミュニケーションの取り方、クリエイティブなライフスタイルの作り方など、僕は音楽をとおして、ものを作ることのいろいろな方法や法則を発見してきました。それはあらゆるジャンルのものであるマインドと共通していることも分かりました。

そんな音楽を通して、感じて、考えて、作ってきたことや、発見した法則をまとめて、あらゆるジャンルでものを作っている人に伝えたいと思いました。

因みに編集をしてくれた集英社インターナショナルの河井さんは大阪外大出身（アラビア語科 86 年卒、陸上部）で、バスケットをやっていたとき以来の外大戦でした。
読んでいただけたら嬉しいです。

木崎賢治著 『プロデュースの基本』

発行：集英社インターナショナル／発売 集英社

2020 年 12 月 7 日発売

定価：本体 880 円＋税

新書判 256 ページ

ISBN 978-4-7976-8062-1

投稿者： 木崎賢治 フランス語 1969 年卒業